



育ちの芽

副園長 奥村 綾

早いもので2学期も残すところあと1か月となりました。

年長組を中心に考えた『七夕』、みんなで作り上げた『運動会』などの大きな行事を終えたことや、充実した遊びの中から、たくさんの学びを経験したことにより、子ども達のこころも体もたくましく成長したように思います。

～グループ参観～

グループ参観が終了しました。保護者の皆さんの中には、子ども達が話しかけてきても「お母さんは透明人間」や「壁だからね」などと言う方もおり、『～空気のような存在になって～』という主旨をよく理解して参観していただきました。ご協力ありがとうございました。子ども達の様子はいかがでしたか?おうちの方が来られても、全く気にせず、自分たちの遊びに夢中になる子もいれば、やはりおうちの方を意識してしまう子もいて、普段の姿が見られなかった方もおられたかもしれません。ただ、気づかれた方も多いと思いますが、この時期になると、それぞれ自分で遊びを見つけて、継続して遊び込んできたことで、さまざまな場所で遊びが発展している様子も見られたのではないのでしょうか。

園庭のツリーハウス前の砂山は、落とし穴になったり、川や池にして橋をかけたり、水を流したり、溜めたりして下水道工事?!をしたり、日に日に形を変え、今では迷路のような砂山になっています。

鉄棒で、前回りに挑戦している子がいます。一人の子は、お腹のところまでは自分で上がれるのですが、前に倒れるのは怖く、教師の補助があって回れていました。ある日も様子を見てみると、両隣りで「いっせーの一で」と言いながらクルクル回る友達に挟まれて練習していました。その友達の勢いにつられ一緒に前に倒れた時に、隣にいた子がそっと手を添え回ることができました。そこから何回も何回も繰り返して、ようやく一人で回ることが出来るようになりました。その日の帰り、お母さんに話をすると、その子は休日も鉄棒に挑戦していたのですが、出来なくて泣いていたそうです。大人の力を借りず、子ども達だけで達成できた瞬間でした。

すみれ組前では、ラーメン屋さんが開店していて、呼び込みをしていたので行ってみると、黄色の毛糸を麺に見立て、色水でスープを作り、店長さんが「ハロウィン風に仕上げました!」と、とてもおいしそうなお緑色のスープのラーメンを持ってきてくれました。折り紙で作った赤いものが入っていたので、尋ねてみると「チャーシューです!!」とすぐに答えてくれました。ラーメンを食べると、なぜか?魚釣りが“ただ”でできるらしく、魚釣りをさせてもらいました。リボンに輪ゴムをつけた釣り竿と、魚のひれの部分はちゃんと引っかかるように工夫が凝らされていました。

「子どもと一緒にこの紙を持ってラーメン屋さんに来ると一人無料です。」とラーメン屋さんのチケットも配ってくれました。子どもの発想や言動には驚かされることが多いですね。

～お泊り保育(芋掘り)～

先日、年長組はお泊り保育で芋掘りをしました。以前は、芋を掘るとミミズが出てくるので、怖くて芋掘りに集中出来ない子が多かったり、シートに大きなアリが上がってくるので、落ち着いて弁当を食べられなかったりしたのですが、『育ちの芽9号』でもお知らせしたように、今年度より幼稚園でいろいろな生き物を飼い始めたり、虫捕り名人がたくさんいたり、普段から生き物や虫のいる環境に慣れているためか、ミミズが出てくると大喜びしたり、虫が苦手な子も、虫好きの友達に助けを求めたりして、芋掘りに夢中になる姿が印象的でした。更に「自分で掘りたい!!」「掘ることに苦戦している友達の手助けをしたい!!」という意欲満々な姿や、友達を思いやる姿も多く見られました。昼食後には、稲を刈った後の畑で、バッタやカマキリ、カエルやコオロギなど、幼稚園ではあまり見られない生き物に大興奮!!大量のカエルを捕まえてケースに入れたり、ずっと虫捕りをしたりして、自然を満喫していました。遊び道具がなくても、自然の中で、それぞれ思い思いの遊びを存分に楽しんでいる子ども達の姿を見て、日々の環境が、子ども達のこころも体もたくましく育てることを実感しました。

～子どもの育ち～

子ども達の様子を見てみると、あちらこちらでささいなもめ事がおこる事も日常茶飯事です。ついさっきまで何人かで一緒に楽しそうに山を作っていたのに、次に見に行くと、一人の子が山を作る邪魔をしていて、どうしたのか尋ねると、「よしてくれへんから。」と拗ねていたり、サッカーをしていてボールが友達に当たったのに謝らなかつたり・・・。「おもちゃ貸してくれへん。」「〇〇が押した。」「〇〇がたたいた。」などは毎日どのクラスでもある出来事です。

うきうきタイム中に「〇〇ちゃんがママにならしてくれない。」と一人の子が言ってきたので、「交代でママをするか、二人がママでもいいんじゃない?」と言ってみたのですが、「だって〇〇の家にはママ一人しかいないもん!!」というごもつともな答えが返ってきました。結局ママにはなれず、その時は思いは通らなかつたけれど、二人はその後家族ごっこを楽しんでいました。

また、朝泣いて登園している子に対して「泣き虫!!」と言った子がいて、キツイ言葉だと思いますが、その言葉を友達から言われたことをきっかけに、次の日から泣かずに登園できるようになりました。

このように幼稚園では日々、子ども達の発想や言動に驚かされることや、時には人を傷つけるような言動も見られます。子ども達は、さまざまなやりとりを経験し、話し合いや意見交換等を通して、自分の気持ちを押し通したり、自分とは違う友達の考えに気づいたりして成長していきます。

先生達は、その都度、子どもに問いかけたり、気持ちに寄り添い、共感したりしながら一緒に考えていき、その経験の中にある、見えにくいもの(気づき、思い、育ち)を言葉にすることで、子どもの姿を肯定的にとらえています。

保護者の皆さんには、入園前のいちにち幼稚園の際に、『幼稚園のうちにさまざまなやりとりを通して、それぞれの感情をぶつけ合い、ケンカなどで辛い思いや、悔しい思いなど「実体験」をすることが大切である』ことを、お話させていただいていますが、まだまだこちらの説明不足もあり、保護者の皆さんと子どもの育ちについて共有できていないと感じることがあります。

幼稚園はそれを経験できる場所であることをご理解いただき、今後も、写真や動画、クラスだよりなどを通して、目には見えにくい子ども達の成長を出来る限りお伝えしていきたいと思っております。

なお、子どもの育ちについて、保護者の皆さんと共に喜び合える、共感し合えるように、保護者の皆さんからのご意見、ご感想をお聞きし、今後の保育に生かしていきたいと思っておりますので、別紙アンケートにご協力よろしくお願いします。